

1980 (昭和55年)

会員数63名

29代理事長

太田仁吉



新年総会は1月19日商工会議所大ホールで開催された。当日は、ネクタイで身を締め、49名の会員が出席して理事長の所信表明・新入会員9名の入会式・各理事の抱負等厳粛にかつ初々しい雰囲気の中で行なわれた。席上、太田理事長は挨拶の中で、友情・修練・奉仕の三信条を基本に居酒屋的談話による方法を取り入れて会員の質向上、JC内部の充実を強調された。総会后、引き続き多数のOB・来賓の方々に懇親会が開かれ、会員開発委員会のパリエティーにとんだアトラクションが花をそえた。

「自分のゴミは自分で持ち帰りましょう」を合言葉にゴミ箱0公園オープニングの5月30日の朝はあいにくの雨であったが、3時からのセレモニー時には雨もあがり、市長・助役・商工会議所会頭・坂本武新推進連絡会長・他多数の来賓及び神山小学校児童約120名の参加によって盛大に開催された。



「自分のゴミは自分で持ち帰りましょう」の合言葉に(王子の森公園にて)

セレモニーは開会の挨拶、主旨並びに経過説明に続き、立看板2基の除幕、児童達の協力によるゴミ箱の撤去返還、児童の誓い、そして最後に市長によるゴミ箱0公園の宣言がなされにぎやかなうちに修了した。このモデル公園に恐らくゴミは捨てられないと思うが、時折私達も注意してこの公園を見守る必要があるかも知れない。

7月23日～26日には、愛媛県少年少女合唱団連盟演奏会大洲大会の為、大洲青年の家で強化合宿を行った。参加構成は団員127名・指導者5名・育成会員20名・JCメンバー20名・総勢172名であった。規則正しい生活時間の中、2日目から聖カタリナ短大の三原先生を中心にパート別指導を受け、又、常任指導者の熱心な指導でめきめきと合宿による集中指導の成果を上げ、無事日程を終えた。8月10日(日)、いよいよ大洲大会へ。参加者他52名の参観者と共に大洲へ。オープニングの後、松前町の「ひまわり少年団」の演奏発表と続き、参加15団体の内14番目に登場した。場内の緊張が一点に集中した時、代表指導者兵頭先生の指揮棒が振られた。今日まで何度も何度も聞いたハーモニー、今日は違っていた!素晴らしいハーモニーが聞かれた。団員・指揮者・伴奏者が一体となっていた。厳しい練習

の成果を今ここで十分に発揮した。

8月にはいって社会開発委員会の最重点事業、20歳の献血が15日成人式に合わせて行なわれた。数度の準備委員会を持ち、後援諸団体との交渉を終え、準備に万全を期した。このところ不順な天候にもかかわらず当日は好天に恵まれ、成人式主席者も約70% 383名の内262名が献血をした。



「はたちの献血」ラジオ番組「アブタヌーンなんかいい」が献血会場から生放送された(8月15日)

又、夏休み行事として20日、小学生の史跡めぐりを行なった。子供達に故郷を愛する心を育てようと市内の小学校5・6年生(希望者)を集め、国の重要文化財に指定されている梅の堂三尊仏見学と出石寺登山を行なう計画だったが、あいにくの雨の為徒歩登山はやめてJC会員のマイカー利用に一部内容を変更した。小学生約80名それに引率の教師は車で出石寺に上り、神山住職の法話「心を大切にしよう」を全員で聞き、持参の弁当を食べたあと下山したが出石寺は平地に比べて3～4度も気温が低い為ヒンヤリと涼しく、又普段聞くことの出来ない和尚さんの話や三尊仏の由来等も良くわかって子供ばかりか教師達もとても良かったと初めての催しは好評だった。

10月に入っては今年も八幡浜祭りのメイン事業であるお祭り村が19日に開催された。本町・田中町で行なわれた今年で3回目を数えるこの祭り村は、毎年市民の人気を集め今や、港祭りの最も重要な催しの一つになりつつあるが、これを主催する我々JCとしては、マンネリ化をふせぎ益々充実した催しにする為重大な使命を課せられるであろう。今年も新しいもくろみとして、市民会館での涙子演芸会ではバラクーダ・小猫が出演、同駐車場でのてやてや劇場では南海放送のワイヤング公開収録が行なわれたほか、出店コーナーには例年人気の豚ちゃんレース、一円運だめし、人力車、ちびっ子劇場、さらに新しく港龍王まつりPRとしての龍王神社、綿菓子コーナー・530運動PRのぬいぐるみが出現した。来年も又がんばろう。



家族親睦会103名参加(川之浜海水浴場にて)

1981 (昭和56年)

会員数70名

30代理事長

平田悦三



輝かしい30年日の幕開けである。平田悦三理事長以下新入会員9名を含め総勢70名のメンバーで、創立30周年事業を含む諸々の事業計画が、すでに何ヶ月も前から練られつつあり、通例の委員会組織と別に会員による30周年実行委員会も構成された。

まず公式スケジュールの初陣を飾る恒例の新年合同祝賀会は1月1日、商工会議所大ホールで一般参加者100名、会員52名の参加を得て挙行された。平田理事長の力量溢れる年頭所信のあと、市長による年頭の辞、酒樽を割っての鏡開きと祈りのサービス、祝儀舞等、なごやかな雰囲気の中で行われた。



新年合同祝賀会に所信をのべる平田理事長

1月17日の新年総会は、理事長の太鼓の響きの様な声に、半ば漏れ、全員が一致団結して、30周年を成功させようという気概を感じさせ総会であり、また、2月17日のOBを囲んでの創立記念日例会でも、OBへの協力依頼がなされ、共に6月28日の30周年事業を目指すことになり、いよいよ具体的活動へと移行していった。

30周年実行委員会、総務部会は、PRパンフレットの作成に始まって、全国700 LOMへのパンフレット並びに登録用紙の発送、式典・講演会部会は画一的な式典より八幡浜の個性を生かした試みを考え悩み、記念講演会の講師の交渉にあたり、懇親会部会は、多数の美人ホステス参加のもと新鮮な海の幸をふんだんに盛り合わせた洋上パーティーの計画、記念誌部会は、30年の資料の再整理、記念事業部会は、屋外ステージ建設の為の市への依頼、動員PR部会では全員の理解と行動による参加のもと、県内外34 LOMへのPR訪問を敢行していった。



伊予三島ブロック会員大会で30周年PRをするメンバー連(5月23日)

むろん30周年にこだわることなく、各委員会事業も活発に行われている。経営開発委員会では2月6日、日銀松山支店長、横山昭雄氏を講師に招き「JC経営セミナー」を開催し「日本経済の現状と、これからの展望」というテーマのもと、現状を、わかりやすく説明していただき、我々経営者たるものに対し、非常に好評であった。社会開発委員会でも、JCメンバー及び一般市民に対しての国際情勢の把握と認識の啓蒙の為、3月14日、国民外交協会より中国問題研究家・前拓殖大学教授、佐藤慎一郎氏を迎え、「中国はどうなっているのか」というテーマのもと熱演が行われ、我々の考えとは裏腹な、否民主的國家たる、中国が、あからさまに訴えられた。児童合唱団担当委員会でも、年度替りにて、3月22日の卒団式、4月18日の入団式、4月25日の育成会総会と多忙なスケジュールをこなしながらも、30周年式典時に於ける新曲発表に備えていた。指導力開発委員会でも、大洲LD道場に参加し、神谷東海地区協議会長を講師として、自己修練と親睦を深めている。

またJC提唱による530運動推進連絡会では、5月30日のゴミゼロの日を前に公園等に於けるゴミ袋、スツーカーの配布、ゴミゼロ旬間の有線放送、地域新聞の利用によるPR活動、そして当日の530運動推進大会を坂本推進連絡会会長、市長、商工会議所会頭等の来賓を迎えセレモニーを行ない、その後、広報車・ゴミ回収車による市内パレード、また当日、八幡浜青年協議会協力による国道清掃もおこなっている。

このように、八幡浜JCが誇り得る会員の素晴らしい行動力と気概を結集して、四国で初めてのJC運動の日をともした八幡浜青年会議所が6月28日の30周年記念式典、記念講演会、祝賀懇親会を迎えることができた。



30周年記念のPR印刷物と記念タバコ



JC経営セミナー(講師・日銀松山支店横山昭雄氏)